

児童養護施設讃岐学園の事業報告

讃岐学園では、5月に園長が交代し新たな運営体制となった令和3年度も「新しい社会的養育ビジョン」に則り、施設の高機能化、多機能化、機能転換に取り組むとともに、入所児童へのより良い支援として、一人ひとりを大切にされた養育と自立に向けた支援を行い、安心して生活できる環境づくりに取り組みました。

令和3年度の定員は50名（暫定定員設定なし）で、入所児童数は、前年度3月末は41名でしたが、年度期間中6名の入所と10名の退所があり、3月末には37名が在籍していました。また、直接処遇職員6名と看護師1名を採用し、施設におけるケア体制を充実させるとともに、引き続き香川県から里親養育包括支援事業の委託を受けるなど里親支援に取り組みました。

新型コロナウイルス感染状況については、令和4年2月に1名、3月に1名の入所児童が陽性と診断され、それぞれ市内の療養施設と園内の小規模グループケア棟（別棟）での隔離療養を行いました。陽性判明後のフロア隔離等、迅速な感染拡大防止対応を行った結果、その他の児童、職員に感染拡大はありませんでした。また、県内の感染状況に応じて入所児童の外出や帰省などの行動制限等を感染症対策検討会で検討し実施する一方、学校で陽性者が確認された場合は、その状況により施設独自で抗原検査やPCR検査を実施するなど施設内での感染拡大防止に努めました。

新型コロナウイルス禍における香川県との連携として、県の一時保護所が満員の時、臨時的に小規模グループケア棟（別棟）を貸し出す貸借契約を締結し、1件延べ9日間の貸出を行いました。

行動自粛の長期化に伴い、施設行事は、一日園長、学園祭りや地域交流会、招待行事や慰問行事など、地域の方々と交流する行事は昨年度に引き続き中止しましたが、児童のストレスや負担感を解消するため、クリスマス会や卒園式の他、夏祭り、ハロウィンパーティー等恒例の園内行事は開催するなど、毎月1度は児童が楽しめる催しを設けました。更に、施設敷地内での外遊びや人の少ない公園などへの外出の機会を多く設けたほか、感染状況が落ち着いた11月には県内日帰り旅行で和三盆作りやハマチの餌やり体験を行いました。

また、学園内にICT推進委員会を設置し、学校でのオンライン授業等GIGAスクール構想への対応や業務の効率化について協議したほか、環境整備として館内に無線LANを設置しました。

職員研修も、例年参加している全国、四国ブロック児童養護施設協議会など各団体が主催する職場外研修の多くが、感染対策のためオンラインでの開催になりましたが、積極的に参加するとともに、職場内でも、職員会やケース会、テーマ別のグループによる研修などに取り組み、職員の資質向上に努めました。

防災については、いつ起こるかわからない災害に備えて、感染防止対策をした上で、適切な避難誘導ができるよう訓練を行いました。

1. 児童の状況(令和4年3月末現在)

・ 2歳児 1名 ・ 年少児 5名 ・ 小学生 16名
・ 中学生 8名 ・ 高校生 7名 計 37名

(1) 年度内の入退所状況

入所 6名 (入所事由: 身体的虐待1、心理的虐待1、養育困難2、施設変更2)

退所 10名 (退所事由: 家庭引き取り8、措置変更1、就職自立1)

(2) 事故、負傷等の状況

身体的負傷 24件、事故等 3件、問題行動 23件、器具破損 2件 計 52件

(3) 苦情の状況

友達関係 20件、職員との関係 16件、要望 13件、その他 18件 計 67件

(4) 行事開催の状況

実施: お花見(施設内)、夏祭り、ハロウィンパーティー、クリスマス会、卒園式、
日帰り旅行(讃州井筒屋敷、マーレリッコ、レオマワールド)、奉仕活動

中止: 一日園長行事、学園まつり、地域交流会、地域の行事、老人施設慰問

2. 職員の状況(令和4年3月末現在)

園長、事務長、嘱託医 3名
児童指導員、保育士(直接処遇職員) 23名
基幹的職員等専門職 7名
栄養士、調理員 5名
事務員 1名 計 39名

(1) 年度内の採用・退職者

採用 7名 (直接処遇職員6名(うち再雇用1名)、看護師1名)

退職 10名 (契約期間満了2名、体調不良2名、自己都合6名)

(2) 研修の状況

職場外・・・オンラインを中心に49講座に参加

職場内・・・職員会12回、ケース会10回、テーマ別グループ研修34回

3. 生活環境改善

備品購入: 無線LAN設置工事 1,694,000円

厨房冷蔵ショーケース 231,000円

車両購入: スペーシアギア(経年劣化車両入替え) 1,938,120円

4. その他

(1) コロナ禍の影響により県からの一時保護受け入れは1名延3日、市町からのショートステイの受け入れは中止、各大学からの実習受け入れは相談援助基礎実習2校3名、保育実習2校4名を受入れ。学習、清掃ボランティアの受け入れは辞退。

(2) 火災、震災、土砂災害避難訓練は感染防止対策をした上で実施。